

事例報告書 ○食欲不振を訴えられる方への支援

83 歳 ・ 男性 ・ 要介護度 2 ・ 独居

【ご利用者の情報】

[疾患]	1. うつ病 2. パーキンソン病 3. 糖尿病	[通院等]	月 2 回、総合病院に定期受診 (神経内科・糖尿科・眼科) 他医院 (皮膚科・歯科)
------	--------------------------------	-------	--

【経過と課題】

●これまでの経過

今まではご本人で食事を準備して召し上がっておられた。最近になってヘルパーに対して「食欲がない」「食事を抜いている」と言われることが頻回してきた。毎食後の服用を確認する際に、食事を摂られないままで薬を服用したと言われることも多くなった。更に、薬カレンダーにセットしてある薬の紛失や服用間違いも多く見られるようになってきた。食材の調達について以前から食料品はご本人が生協で購入、不足品をご家族に依頼していた。しかし、本人から「(生協で)頼んだものが届かない。」「確認したら頼んでいなかった。」ということも増えてきた。「食事は済んだよ。」と言われる時も、ゴミからコンビニで多量にスイーツを購入されそれで済まされている痕跡やご飯に漬物だけ、麺類だけで簡単に済まされていることも多くなっていた。胃のムカつき症状の訴えも強くなり、胃腸科を受診されるが医師からは「特に異常はない。」と胃薬のみを処方され、一か月ほど様子を見ていたがあまり改善されなかった。徐々に顔に中度の皮膚疾患も見られるようになった。顔の皮膚疾患について受診してもらうことで、油分不足であり、食生活の偏りが原因とアドバイスを受け、食生活の改善が必要であるとわかった。

●解決したい課題

- ①これまでご本人で行っていた食材の調達をどのように支援していくか
- ②バランスよく食事をとって頂けるようにどのような支援が必要か
- ③服薬をきちんと行えるようにどのような支援が必要か

●支援の見直し

- ①ご家族にお話を聞くと、ご本人からの購入依頼が頻繁になっており、ご家族への負担も大きくなっていったことが分かった。

支援方法：必要品の把握や提供しやすい食材の提案、購入品をリストアップすることで、ご家族が何回も購入しに行かなくて済むようにして食材の調達を支援するようにした。

- ②「何故、食欲がなくなっているのか?」「どのような事が生活に支障をきたしているのか?」

などご本人が負担に感じていることを傾聴した。その内容から、最近のご家族に対する不満があることやご自身でもお気づきでない生活動作が困難になっていることで、物事が思うようにいかないことへ憤りを感じておられるなどに気付くことが出来た。その上で、どのようなサービスを今、必要とされているかを検討した。

支援方法：ヘルパーでなるべくご家族への不満に関する事は寄り添い傾聴し、食事の準備はご本人と一緒にを行うことにして、体調によって食べやすいものを提案し、提供できるようにした。



好きな時に召し上がっていただけるように訪問時に、次の食事準備をするようにした。

③毎食後薬は自分のタイミングで飲みたいというご本人の意志にも沿った、薬の紛失や間違いを起こさない為の服薬支援方法を検討した。

支援方法：服薬の間違いが起きないように服薬時ごとの薬がセットできるような服薬カードを作成した。ヘルパーが食事前に薬カレンダーから取り出した薬を服薬カードにセットするようにした。



訪問時に食卓へ服薬カードをテーブルにセットし、次回の訪問で服薬確認できるようにした。

【その後の状況】

- ①ご家族の買い物への負担軽減が図れ、かつ、バランスよい食材を切らすことなく補充することが出来るようになった。
- ②食事の偏りや摂取状況を把握し、バランス良い食事提供を行ったことにより、胃のむかつきの緩和へと繋がったのか、徐々に食欲が出てくるようになった。
- ③薬を紛失する事や服薬間違いを起こすことなく、ご本人のタイミングで確実に服薬が出来るようになった。